

令和3年12月22日

第1回

国際交流

台湾 桃園市立内壠国民中学校 (Nei-Li Junior High School)



- ・難しかったけどやりがいがあった。
- ・おもしろかったが、何を言っているか分かりずらかった。
- ・初めての経験で、とても楽しかったです。
- ・緊張したから、少し早く話してしまった。けれど大きい声で話すことができた。
- ・緊張して失敗してしまっただが、上手く伝えられたと思うし、問いも考えて言うことができた。
- ・生徒会の学校紹介、とてもいいと思った。
- ・緊張した。早口で言ってしまった。
- ・緊張したけど、自己紹介ができた。
- ・人生で初めての経験で、とても楽しかった。もっと、大きい声で言いたい。
- ・落ち着いて、分かりやすく言うことができた。
- ・質問ができなかった。
- ・台湾の人がたくさん反応してくれて、うれしかった。
- ・分かりやすく伝えられたと思う。
- ・台湾の人と交流することは、なかなかできないので、できてよかった。
- ・国外の人とあんまり話したことがなかったので、楽しかった。

三野津中生 台湾中学生と交流

英語でやりとり 画面越しに笑顔

三野津市三野町の三野津中学校宇野書紀校長が、台湾・桃園市の市立内壠国民中学校との間でオンラインによる生徒たちの交流を始めた。参加した生徒同士が英語で自己紹介や学校紹介、質疑応答などを行い画面越しに笑顔が広がった。



台湾の中学生に向け、画面越しに笑顔で質問する三野津中の生徒。三野津市三野町

質疑など懸命に語り掛け

内壠国民中は在校生2千人ほどのマンモス校で、三野津市国際交流協会が橋渡しをして12月22日に初めて実施した。三野津中では1、2年生の生徒会役員7人と希望者15人の計22人が参加し、台湾の旗と日本の国旗を振って親善ムードを高めた。

三野津中の生徒たちは1人ずつ名前を英語と漢字で書いたカードを持ってカメラの前立ち、動画なども見せながら発表。自己紹介では好きな音楽やスポーツ選手、部活動などについて、学校紹介では生徒数や行事、地元三野津市の特色などについて、練習してきた英語で一生涯語り掛けた。

質疑では手で「O」「X」の形を作って「コミュニケーションを取った」「日本の食べ物で何が好き」と質問すると、「すし」という答えが返ってきて教室は沸いていた。

生徒会長の細川愛衣さん(17)は「台湾の中学生の英語が流ちょうでびっくりした」と刺激を受けた様子で、「学校の違いも分かって面白かった。今度は台湾の年中行事などを知りたい」と話した。

交流後、内壠国民中の教員から「三野津中の生徒たちはとても気さくで、私たちが驚かせ、学習の模範になっている」とお礼のメッセージが寄せられた。今回の交流は2月ごろを予定している。

「四国新聞」

